

越中一宮

高瀬神社社報

高瀬神社の御神徳を



第4号

平成16年9月13日

越中一宮高瀬神社

<http://www.takase.or.jp/>

写真：なでうさぎ

撮影：南部写真館 南部 栄氏

社頭講話

「体験から学ぶこと」

宮司 藤井秀弘

昭和二十年八月に戦争終結の詔を拝授して世の中は平和になったと云うものの、人々の生活は苦しみと貧困の中での生活を余儀なくせざるをえなかった時代でした。生活物資はことごとく統制され、米や味噌、醤油に至るまで配給され、しかも生活に充分と云った量ではありませんでした。私の祖母は農家出身でしたから山間地にある水田を耕作し、米は生活するに充分ありました。ですから親戚の子供たちが土曜日になると私の家で一泊して帰ってゆきました。おそらく空腹を満たすためだったでしょう。私の母は自家製の豆腐をつくり食べさせてくれたことを今も忘れません。

父と祖父が少しでも親戚一同

の生活が豊かになればと話しあい、炭焼きをすることになりました。

私の家から三キロ程の山の中に炭窯を利賀村出身の専門の方に二ヶ月間の時間をかけて造ってもらいました。暑い夏の日に山中に入り雑木を切る手伝が来る日も来る日も続きました。切り倒した木を炭窯に入る長さに切るのが私の仕事で、短かく切った木を束ねて炭窯の前に運び窯につめ、火をつけます。一週間たつと真黒な炭が窯から出て来るのですが、それを俵につめ、母と妹と三人で家まで運ぶ仕事が続いています。一俵の重さは十五キロで、一人で六十キロ程の炭の俵を背負って約三キロ程の山道を一日に三回から四回往復しました。

春秋は楽しく山道を歩きますが夏は苦しい思いで運び最後に運ぶ頃は暗くなった山道を月や星を仰ぎながら足を早めて家路を急ぎ、背負って来た炭の俵をおろしたときの心地よさは重い荷物を背負った者でないとわからない事であろうと思います。

つらい事、苦しい事はそれを体験することによって次に楽しさ快感等を味わうことができるし、それが一つの事を完成した喜びになることを私は父母から炭焼を通して学びました。

或る日、父が「今日、窯から炭を出すぞ。」と云うのでその準備をしていると、はじめは父が炭を窯から出しはじめますが、中ほどになると「交代。」と云って私と代わります。窯の中はものすごく熱く、五、六分経過すると一度窯の外へ出て深呼吸をしてまた窯の中から炭を出す作業を続けます。窯から出て深呼吸したとき、空気はうまいと思いました。また、太陽が照り

つづける夏の昼でも外は涼しいと思いました。

人間はその時の環境とか自分の立場によって各様な感情と思考、実体験をすることが出来るのだと思います。更に体験を積み重ねることによって思いやる心を養うことができるのだと私なりに今も思っています。即ち、体験の中から相手の気持、立場を考えることができる心を培うことができることが、現在失なわれていく精神文化を向上させて助け合い応援しあうことが平和な社会、心豊かな社会を創造するのではないのでしょうか。

私は山の中で父と二人、力を合せながら生きることとは何か、山の中に生きる動植物の生きる姿を参考に様々な生態を学ぶことができました。その中で私なりに生きることの大切さと苦しみ、即ち喜怒哀楽を学ぶことができたことを今尚、大自然と父に感謝しております。

祭 事 曆

十月 十一日	村祭り	農繁期を終えたことを氏神様に奉告し、感謝する氏子のお祭りです
十月 十七日	神嘗祭当日祭	伊勢の神宮で今年の収穫物を初めてお供えするお祭りです
十一月 三日	明治節祭	明治天皇のご聖徳をお偲びし、感謝申し上げるお祭りです
十一月 十三日	神明宮例祭	天照皇大神のご加護に感謝するお祭りです
十一月 十五日	七五三祝祭	我が子の成長を喜び、更なるご加護をお祈りするお祭りです。
十一月二十三日	新嘗祭	新穀をご神前にお供えし、収穫を感謝するお祭りです
十二月二十三日	天長節祭	今上陛下のお誕生日をお祝いするお祭りです
十二月三十一日	師走の大祓	一年の罪穢れを祓い清めて新たな年を迎えるお祭りです
十二月三十一日	除夜祭	今年一年の感謝と新年の繁栄をお祈りするお祭りです
毎月 一日 十三日	月次祭 交通安全祈願祭	国の隆昌と皇室の弥栄、氏子崇敬者の幸福をお祈りするお祭りです。十三日には、交通安全講員の無事故・無違反を祈る交通安全祈願祭も行われます

高瀬ゆかりの地を訪ねて

「旅川と御旅所」

南砺地方には庄川や小矢部川などの富山県を代表する河川が流れ、かつては度重なる氾濫にその流れが変わりましたが、反面、古来よりこの地方の農業や産業の用水をささえておりました。

小矢部川の支流に「旅川」があり、その流域の福野町江田には、昭和九年四月に一つの石碑が建立されました。

「此地は往昔 高瀬神御休みの故を以て 毎年神輿ならせ給へりと地名を江田と称へ江田村氏神の鎮座地なり 高瀬神社と縁由深き所なれば其故由を記すと云爾」と刻まれておりますことから、かつてこの地が神輿巡行の御旅所であったことがうかがえます。

地誌によりますと、越中を平定するため高瀬神(大國主命)

が日本海から小矢部川を経てさかのぼり高瀬の地に渡ってこられた日が七月十四日とされております。途中、江田村に上陸なされ「足袋」を川の水ですすがれたことから、この川を「旅川」と名づけられたと記されています。

また、旅川の周囲には「高瀬遺跡」をはじめとする縄文・奈良時代の遺跡や主要社寺が多数あることから、かつては水運の要所として栄えていたことが考えられます。



夏越の大祓なごしのおほらい

我々が知らず知らずのうち
に犯している半年の罪・穢を
祓い、残りの半年を清々しく
過ごす「夏越の大祓」が、去
る六月三十日午後三時より
氏子・崇敬者約一五〇名参列
のもと斎行されました。

参列者は「人形」に罪穢を
託し、「茅舟」に納めました。
祓いをうけ、次々に「茅の輪」
をくぐり心身を清めたのち、
「茅舟」に収められた「人形」
を、大川道に祓い流しました。



「高瀬稻荷社」例祭

末社の「高瀬稻荷社」の例
祭が梅雨の晴れ間の六月三十
日午前十時に境内東側の稻荷
社前庭において、講員約三十
名の参列のもと斎行されました。
祭典に引き続き、御本殿で
商売繁盛祈願祭が執り行われ、
講員一同の商売繁盛・家内安
全が祈願されました。
また、脇拝殿床「絨毯一式」
を奉納した、講員の(有)さつき
堂代表取締役社長宮脇正秀氏に、
宮司より感謝状と記念品が贈
られました。

人形感謝祭

本年度五回目を迎えた「人
形感謝祭」が、七月十八日午
前十時斎行されました。

子供の成長とともに古くな
ったり、不要になった「日本
人形」や「ぬいぐるみ」約三
千体が、境内特設の納め所に
持ち込まれました。

祭典につづき、約八十名の
参列者は、愛着ある人形に思
い思いの感謝の言葉と感謝の
誠心を捧げ、お別れをしました。



除熱祭

水稻や畑作物が日照りによ
る災害なく生育するよう祈願
する「除熱祭」が、梅雨明け
間もない七月二十二日に斎行
されました。祭典につづき祭
員が献穀田に赴き、順調に成
育する稲を祓い清め、御幣を
たて御加護を祈念しました。

また、夕刻には氏子による「熱
おくり大鼓」が町内を練り歩き、
暑さに負けず夏を乗り切ろう
と太鼓の音色を響かせました。



「なでうさぎ」像清祓式

去る六月二十七日、「なでうさぎ」像の清祓式が斎行されました。

本殿での奉告祭につづき、向拝の「なでうさぎ」像前で除幕が行われ、ブロンズ製の愛らしい「うさぎ」が披露されました。

御祭神の大国主命（大国様）は、神話「因幡の白うさぎ」において、過ちを犯し、体に傷を負った「うさぎ」のケガを癒され、悪しき心をも改心されたと記述されております。この神話に因み、大国主命の御神徳を広くご参拝の方々に受けいただきたいと願い御神前に置かれました。

拜殿正面にて参拝祈願された後に、ご自分の癒してもらいたい部位と同じところを祈念しながら撫でて、宏大無辺なる大神様の御加護をお受け下さい。



※当日参列者

- 責任役員
 - 西田東作氏
 - 岩倉巧二氏
- 題字揮毫者
 - 綿貫民輔氏（代理参列、綿貫隆氏）
（神社本庁長老）
- なでうさぎ像製作者
 - 田畑 功氏（日展作家）
- 台座製作据付者
 - 石森石材（有） 石森幸一氏
- 高瀬区長
 - 森田松夫氏

「人形展」開催

「人形感謝祭」にあわせ七月十九日より二十一日まで「人形展」一期一会」が開催されました。

「古い人形との別れ」と「新しい人形との出会い」の両面があることからタイトルを「一期一会」として本年度で第四回目を数えることとなりました。

木彫刻やカントリドールなどの創作人形約一〇〇点が展示されました。

また本年は、「いけばなとのコラボレーション」と題し、草月流いけばな「秀抱会」により会場が装飾され、各作家が思いを込めて作製した人形に華をそえました。



▽出品作家

- 阿部 達也（富山市）
- 牛島 辰馬（庄川町）
- 八木 裕子（富山市）
- 池田由美子（砺波市）
- 荒井 恒雄（井波町）
- 松原きよこ（富山市）
- 鶴飼 文代（八尾町）
- 松本 昌子（魚津市）
- 大和 温（富山市）
- 福島まゆみ（金沢市）
- 安達 陽子（砺波市）
- つるもりひろこ（野々市町）

▽装飾

- 草月流「秀抱会」
 - 会長 梅崎秀鈴（庄川町）
- ※順不同、敬称略



諸祭事のこと

「国家隆昌祈願祭」

富山県神社庁東砺波支部・西砺波支部総代会総会に併せ、「国家隆昌祈願祭」が去る八月八日、当神社拝殿にて斎行されました。

本殿には、東西砺波支部管内の三十五社の御祭神が同座されており、参列の総代一八〇名は、残暑厳しきなか、国の隆昌と皇室の弥栄を祈念しました。

祈願祭に続き拝殿において、多年にわたり社務運営に寄与された方々に、総代会支部長より感謝状と記念品が贈られました。



参 拜 日 誌 抄

(六月〜八月)

「六月」

- 八日 氏子清掃奉仕
- 九日 福井県神道青年会六名
- 五日 群馬県神社庁高崎支部
- 高崎市神社総代会
- 十三日 白山比咩神社氏子青年会九名
- 立正佼成会(清掃奉仕)
- 十六日 熱田神宮草薙会四期生
- 二十一日 富山県神社総代会

「七月」

- 一日 中越パッケージ(株)
- 川田工業(株)
- 建設業労働災害防止協会 砺波分会
- (社)富山県労働基準協会
- タカハタ工業(株)
- 二日 於保多神社総代会十五名

- 七日 神道青年全国協議会 副会長 加藤知史
- 八日 神道青年全国協議会 会長 藤山敬廣 理事 丹生貴士
- 十三日 立正佼成会(清掃奉仕)
- 十九日 神社庁東西砺波支部
- 二十九日 宇多須神社 宮司 森 博
- 池田合同(株) 社長 池田喜紀

「八月」

- 五日 高瀬神社崇敬会群馬支部四名
- 七日 高瀬神社献茶奉賛会役員会
- 八日 神社総代会東西砺波支部 「国家隆昌祈願祭」
- 十一日 全国一の宮巡拝会 入江孝二郎
- 二七日、二八日 富山県神社庁総会・研修会
- 三十日 明治神宮崇敬会 事務局長 宮崎重廣
- 三十一日 七尾市青色申告会婦人部十七名

「井波町」より 「南砺市」へ

来る十一月一日より、井波町をはじめ八町村(城端町・平村・上平村・利賀村・井波町・井口村・福野町・福光町)が合併し「南砺市」となります。

したがって鎮座地が「井波町高瀬」より、「南砺市高瀬」に変更になります。高瀬の大神様のご加護のもとこの地域の更なる発展を祈念いたします。

授与品案内

「福つきまもり」

(初穂料) 八〇〇円にて授与しております。



平成十七年「初詣献灯」の御案内

当神社では「初詣献灯」を実施致しております。本行事は、初詣期間中に正参道両側に「提灯」を掲げ、新年も輝かしい一年となるよう、尚一層の御神徳を授けて戴くことを願ひ奉納するものです。

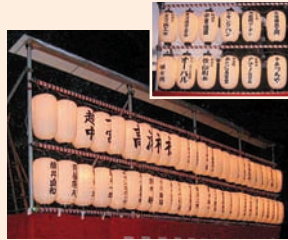
一、「初詣献灯」は正月七日まで、境内等参拝者道筋に献灯いたします。

一、「初詣献灯」は、それぞれ正面に希望の芳名（会社・氏名等）を記入いたします。

一、献灯者の家内安全・商売繁盛の祈願祭を奉仕いたします。

一、献灯初穂料は、一基につき金壹萬円御志納願います。

一、申込締切 十一月十日までにお申込願います。



※記載芳名 例（約八文字）

- 一、会社 井波町 (株)高瀬
- 二、個人 高瀬興業株式会社
- 個人 高瀬 高瀬太郎
- 個人 高瀬 太郎

御案内

「七五三詣」

本年は次の通りです

○七歳（女子）

平成十年生

○五歳（男子）

平成十二年生

○三歳（男女）

平成十四年生

※十月三十日より十一月末日まで、毎日午前八時三十分より午後四時三十分まで随時受け付けております。

祭典・結婚式等で御奉仕できない時間帯もありますので、お出かけの際は社務所までおたずね下さい。

尚、十一月二十三日は新嘗祭齋行のため午後一時より受付いたします。

「第三十一回献茶式」

十月十七日（日）

午前十一時齋行

（お茶席・二席）

午前八時三〇分～午後三時

（担当）

表千家流橋爪孝仙社中

（茶券）

一枚三千円（短冊・点心付）

「奉納」

○脇拝殿床絨毯一式

砺波市太田(有)さつき堂

代表 宮脇正秀

平成十六年六月三十日

「訃報」

責任役員 岡本 巖氏

平成十六年七月二日逝去

昭和六十一年より、多年にわたり、当神社の責任役員を務められました。

謹んでお悔やみ申し上げます。

編集後記

今年の夏は、全国各地で思いもよらぬ豪雨のため多くの方々が被災されました。衷心よりお見舞い申し上げます。

また、記録的な猛暑の夏でもありました。

自然の恐ろしさを改めて教えられた半面、人災とは何か？とも考えさせられる夏でした。

幸にして当地は被害なく、これも大神様のご加護と感謝申し上げます、これよりのちも穏やかに過ごせるよう、日々お祈りしましょう。

「良き時代」の結婚式・披露宴



30名様パック **煌** きらめき
868,000円

挙式料・介添・会場費・カラーコーディネート料
音響・記念帳・招待状・席順表・料理・飲み物
ケーキ・装花一式・チェアドレス
写真(2ポーズ、アルバム2冊)
衣裳(紋付一式、白無垢一式)
美粧(着付一式)
追加料金 お一人様 16,800円

50名様パック **輝** かがやき
1,285,000円

挙式料・介添・会場費・カラーコーディネート料
司会・音響・記念帳・招待状・席順表・料理
飲み物・ケーキ・装花一式・チェアドレス
写真(2ポーズ、アルバム2冊)
衣裳(紋付一式、白無垢一式)
美粧(着付一式)
追加料金 お一人様 17,850円

玉椿プラン
260,470円

挙式料・介添
新郎新婦和装一式
(着付含…白無垢、袴)
写真(2ポーズ、アルバム2冊)

ゆめうらら ~夢浮麗~
1人 2,500円

・和風会場装飾及び卓上装花
・卓上キャンドル・メニュー表 & 席札
(カラーコーディネート料含む)

はなきらら ~華綺麗~
1人 3,800円

・会場装飾花一式・ドレスupチェア
・卓上キャンドルorリボン
・メニュー表 & 席札(カラーコーディネート料含む)

真心こめた手造りの粋
ご婚礼引出物
いろいろ



寿五品セット

松竹梅

お祝いごとに、贈りものに

井波の伝統名菓

井波産物

御所落雁

高瀬神社御用達
お中元
お正月

〒932-0217 富山県東砺波郡井波町
076318210402
076318210467

発行日 平成十六年九月十三日

発行所 越中一宮高瀬神社 〒932-0217 富山県東砺波郡井波町高瀬一五二

TEL 076318210402 FAX 076318210402

編集人 浦

泰宏

印刷所 牧印刷株式会社